

港湾振興便り



2025. 6

第217号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ ― クールビズがもたらしたもの ―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 苫小牧港において北海道初のフェリー向けLNGバンカリングが開始されました！

(苫小牧港管理組合総務部港湾政策室)

- 小名浜港見学会を実施しました

(東北地方整備局 小名浜港湾事務所)

- 福井市足羽中学校の1年生を対象に敦賀港について学ぶ講義を実施しました！

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

- 「西之表港洲之崎地区複合一貫輸送ターミナル整備事業着工式」を開催

(九州地方整備局 西之表港湾事務所)

*:

1 ポートエッセイ — クールビズがもたらしたもの —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

昨年、一昨年と記録的な猛暑が続いた日本列島。予報ではどうやら今年の夏も厳しい暑さとなるらしい。

そんな暑い夏でも、ネクタイや上着を着用せず、夏季に室温摂氏28度で快適に過ごせる軽装を呼びかけて2005年から始まった「クールビズ」は、今年で20年の節目を迎え、今ではすっかり定着している。

新潟市でもこれまで夏季の省エネ対策の一環として、毎年5月から10月末までをクールビズ期間とし、ノー上着・ノーネクタイなどを実施していたが、本年4月からは職員の軽装での勤務を通年化した。

上着やネクタイなどを着用せず、ポロシャツなどの格好でも仕事ができるようにし、働きやすい職場環境を整え、業務能率の向上などにつなげる。多様な働き方を支援し、従業員の満足度向上にも寄与することが期待される。

クールビズの導入は、日本のビジネススタイルや働き方に変化をもたらしただけでなく、環境意識の向上にも貢献した。オフィスの冷房設定温度を適正化することで電力消費を抑え、温室効果ガスの排出削減による脱炭素にもつながってきた。

また、新潟市では2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指して取り組んでいる。その一つに、カーボンニュートラルであるバイオマスプラスチックの利用推進がある。以前も紹介したが、新潟市では二酸化炭素の排出量がより少ない指定のゴミ袋を作るため、資源米を育てている。5月には私も参加し、地元の小学生と一緒に資源米の田植えを行った。秋には収穫され、このコメを原料としたゴミ袋が販売される予定だ。豪雨や猛暑が起きる要因を減らすためにも、地球温暖化対策は重要である。脱炭素に向けた取り組みは、さらに進めていかなければならない。

今回、一緒に資源米の田植えを行った将来を担う子どもたちにとっても、脱炭素に向けた取り組みを考える貴重な体験となったに違いない。

●小名浜港見学会を実施しました

東北地方整備局 小名浜港湾事務所

福島工業高等専門学校にて、小名浜港湾事務所が講義を行う「輸送施設工学」の1コマで、より小名浜港の役割・魅力を肌で感じていただくため、学校を飛び出し小名浜港見学会を実施しました。

見学会では、重要港湾である小名浜港の海上からの見学をはじめ、ケーソンヤードや国内最大規模の石炭集荷拠点である東港地区国際物流ターミナルの見学も行いました。

今回の見学会を通じ、小名浜港が人々の暮らしを支えるうえで重要な役割を果たしていることを学び、将来のお仕事にも役立ていただければ幸いです。



海上から小名浜港を見学している様子



東港地区国際物流ターミナルを見学している様子

●福井市足羽中学校の1年生を対象に敦賀港について学ぶ講義を実施しました！

北陸地方整備局 敦賀港湾事務所

令和7年5月20日(火)、福井市足羽^{あすわ}中学校の1年生21名を対象に敦賀港について学ぶ講義を実施しました。生徒たちは総合学習で「敦賀の魅力にせまろう」という大テーマに対して6つのグループに分かれてフィールドワークを行っており、そのうちの1グループのテーマが「港や海について(自然や貿易)」ということから、当事務所において港の仕事と役割、敦賀港の歴史の移り変わり、現在の敦賀港の役割の3つについて講義を行いました。

普段の生活ではなかなか港に関わる機会が少ない生徒たちからは、「敦賀港が昔と今でどのように変わったのか」「敦賀港の目的は何か」といった質問がありました。講義後は「敦賀港の歴史を詳しく知ることができた」「今と違う昔の敦賀港の写真を初めて見て驚いた」「敦賀港での貿易について学ぶことができた」などの感想が聞かれ、今回の講義が敦賀港の魅力に触れる貴重な機会になったものと思います。

今後も、このような広報活動を通して、多くの人に「港の魅力」を感じてもらえるように取り組んで参ります。



事務所職員による講義



質疑応答の様子

●「西之表港洲之崎地区複合一貫輸送ターミナル整備事業着工式」を開催

九州地方整備局 西之表港湾事務所

令和7年5月18日(日)、九州地方整備局西之表港湾事務所及び鹿児島県の共催により「西之表港洲之崎地区複合一貫輸送ターミナル整備事業着工式」を開催しました。

西之表港は、種子島の北西に位置し、消費や経済活動に要する物資の取り扱いや九州本土と種子島・屋久島を結ぶ生活航路である定期船の発着基地として旅客輸送と物流の両面で重要な役割を担っています。

本事業において、耐震強化岸壁やふ頭用地等の整備を行い、貨物需要の増大に伴う船舶の大型化に対応するとともに、大規模地震発生時の緊急物資輸送拠点としてさらなる発展が期待されます。



テープカットの様子

[illegible]